

「創造的に考え、 わかりやすく発信できる生徒の育成」

～教科等横断的な視点を踏まえた学びを深める単元づくりを通して～

I 教育概要

- 1 学校教育目標と経営方針
- 2 本年度の努力点と達成のための重点施策
- 3 生徒数
- 4 職員組織

III 実践内容

- 1 研究の基本となる内容
- 2 授業実践
- 3 学習状況調査結果及び分析

II 研修の概要

- 1 研修主題
- 2 研修主題設定の理由
- 3 研修のねらい
- 4 研修の内容
- 5 研修組織
- 6 研修の経過

IV 研修のまとめと今後の課題

- 1 研修のまとめ
- 2 今後の課題



片品村立片品中学校

I 教育概要

1 学校教育目標と経営方針

- (1) 教育目標 「豊かな人間性、生きた学力、強い身体」を磨く生徒
- (2) 目指す学校像 「一人一人が認め合い、輝き合い、さわやかで活力に満ちた学校」
- (3) 目指す生徒像
 - 「昨日の自分を超越しようとする生徒」○「主体的に気づき、考え、行動する生徒」
- (4) 経営方針

地域の存続や発展と、学校の存続や発展は表裏一体のものである。地域の衰退が続けば学校は消滅し、逆に学校が将来の地域発展につながる種を蒔くことができれば、数年後、数十年後にその成果がでてくる。片品村に存在する片品中学校の存在意義は、まさにここにあると考える。したがって、「グローバルに考えローカルに活動する、グローバル人材の育成」、言い換えると、「広い視野をもち、片品の未来を創る人材の育成」が必要となる。そこで、これを具体化したものとして、「自分自慢、片中自慢、片品自慢のできる生徒の育成」を経営スローガンとして掲げ、学力・心力・体力をつける中で自己肯定感をもち、お互いを認め合える人間関係をつくる中で自己肯定感を自己有用感へと高め、片品を知り愛着をもつ中で、自分を地域で活かしていこうとする生徒を育てていくこととする。なお、経営スローガンを具現化するために、以下の3点を目指す教師像として掲げ、全職員のベクトルを一致させて取り組んでいくこととする。

- 学力・心力・体力をつけ、生徒に自己肯定感をもたせる教師
- お互いに認め合える集団をつくり、生徒の自己有用感を高める教師
- 片品を知り、片品の魅力を、生徒に伝え・広める教師

2 本年度の努力点と達成のための重点施策

- (1) 教育の目標の具現化に向けて
 - ① 〈豊かな人間性〉
 - 笑顔、挨拶、返事、礼儀、素直さ、感謝、思いやり、規範意識
 - 豊かな人権感覚に基づいた実践力
 - ② 〈生きた学力〉
 - 協働・共生社会において活用できる知識・技能の習得とそれを活用する能力
 - 対話を通して学び合い、自らの学びを振り返り、深める意欲・姿勢
 - 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善推進校（県教委指定）の推進
 - ③ 〈強い身体〉
 - 自らの健康の保持・増進
 - スポーツのよさの理解、体力・技術の向上、集団と個の在り方（学びと喜び）
- (2) 教育環境の充実
 - 生徒の人権・人格を尊重する言語環境の徹底（認め、励まし、意欲を高める言葉かけ）
 - 家庭・地域との連携・交流による美化活動や奉仕活動の推進
- (3) 保護者・地域と連携を図った教育活動の充実
 - 積極的な情報発信や家庭、地域との連携・協力による信頼関係・協力態勢の構築
 - 学校評価システムの活用による PDCA
- (4) 安全・危機管理の徹底（安心・安全な学校生活の保障）
 - 交通事故や生活事故防止（日常的・計画的な安全指導の継続、安全点検の徹底と迅速な処置）
 - 生徒に危険予測・回避能力をつけさせるための安全・防災教育の推進
 - 片品中学校校舎改築：より望ましい校舎となるように基礎設計・詳細設計への積極的参画

3 生徒数

学 年		1 年		2 年	3 年		合 計	
学 級		1 組	2 組	1 組	1 組	2 組		3 組
生 徒 数	男	1 0	9	1 3	1 0	1 1	1	5 4
	女	9	9	1 0	1 0	1 0	0	4 8
	小 計	1 9	1 8	2 3	2 0	2 1	1	
計		3 7		2 3	4 1		1	1 0 2

4 職員組織

職名	氏 名	担 当	職名	氏 名	担 当	職名	氏 名	担 当
校長	雲越 誠司	経営管理	教諭	上山 和真	2年副担	非常勤	金子 友美	美術担当
教頭	大竹 敏之	企画運営	教諭	岡田 秀久	3年主任	非常勤	青木 真美	家庭担当
理事	高橋 由雄	学校事務	教諭	笹口佳津衣	3年1組	非常勤	内田 共平	技術担当
教諭	倉澤 秀祥	教務・3年副担	教諭	戸部 尚樹	3年2組	SC	青木美穂子	教育相談
教諭	阿部 尚人	1年主任	教諭	星野理恵子	3年副担	特別支援	笠原まき江	学習補助
教諭	栢井 雅之	1年1組	教諭	岡野 典子	群大大学院	特別支援	星野 愛美	学習補助
教諭	植木みどり	1年2組	養護教諭	井上佳月子	保健担当	ALT	ケリー レウング	英語指導助手
教諭	笹川 智香	1年副担	養護教諭	井田 美穂	育 休	公仕	須藤 松子	用 務
教諭	篠澤 敦子	2年主任・3組	教諭	星野 正	初任研指導員	公仕	飯塚 睦夫	学校施設
教諭	遠藤 春奈	2年1組	非常勤	見城 達夫	初任研後補充			

II 研究の概要

1 研修主題

研修主題 「創造的に考え、わかりやすく発信する生徒の育成」

副主題 ～教科等横断的な視点を踏まえた学びを深める単元構想を通して～

2 研修主題設定の理由

本校では平成29・30年度の2年間に渡り、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善推進校事業の指定を受け研修に取り組んできた。本年度は昨年度の研修の成果である「学びを深める単元構想」の充実を図るとともに、「カリキュラム・マネジメントの視点」を加えた授業改善に取り組んだ。本年度の主題は、以下の3点を踏まえて設定することとした。

1点目は、学校の教育目標及び身に付けたい資質・能力との関わりである。具体的には次の2点、①学校経営の基盤である校長の示す本年度のグランドデザインの重点方針「グローバルに考えローカルに活動するグローバル人材の育成」の具現化に向けて、「創造的に考え、わかりやすく発信できる力」を身に付けさせること、②具体的な手立てとして、「カリキュラム・マネジメントの視点」を各教科で共有し、「学校全体で育成したい資質・能力」を明確にした教科横断的な取組を充実させること、を視点として設定した。

2点目は、本校生徒の実態との関わりである。生徒のよさとしては、①単元構想シートを作成し、単元を見通した課題を設定したことで、必要感をもって本時の学習に取り組み、見通しをもって意欲的に学ぶ姿が見られたこと、②「互いの考えを比較すること」「多様な情報を収集すること」「先哲の考えを手がかりに考えること」など、主にインプットの視点で望ましい姿が見られたこと、が挙げられる。反面、課題としては、①集団の中で自分の

考えを自由に表現する生徒は限られており、話し合いの中でも全員が積極的に自分の考えを発信しようとする意欲に課題が見られること、②少ない生徒数の中で集団が固定化して変化があまりないため、自分から発信しなくても発信できる生徒によって授業が進行していく場合が多いこと、があげられる。

3点目は、教職員の指導のあり方との関わりである。指導の成果が表れた原因として、①「単元構想シート」を作成し、単元を見通した課題を設定したことで、単元を構成する1時間ごとのめあてが筋の通ったものとなり、必要感や見通しをもって取り組みやすくなったこと、②自己の考えをもたせ、様々な考えをもつ他者と対話する機会を設定したことで、自らの考えを広げたり深めたりする学びにつながったこと、が挙げられる。反面、課題が表れた原因と改善の視点としては、①自分で創造した考えを相手にわかりやすく発信したり、社会の中で多くの人と関わりをもてたりするような学習課題、場面設定が少なかったこと、②問題解決のための情報を進んで収集し、解決策を自ら創り出したり、他者との交流の中で自分の考えを発信したりできるような指導を充実させる必要があること、が挙げられる。

以上の点から、教科等横断的な視点を踏まえた主体的・対話的で深い学びの単元構想を通して、授業実践を継続して積み重ねることにより、創造的に考え、わかりやすく発信できる生徒を育成したいと考え、主題を設定した。

3 研修のねらい

各教科の特性に応じて、教科等横断的な視点を踏まえた単元構想を設定し、「主体的・対話的で深い学び」の視点を計画的に位置づけた授業実践を継続して積み重ねることにより、創造的に考え、わかりやすく発信できる生徒を育成する。

4 研修の内容

(1)「創造的に考え、わかりやすく発信できる生徒」を育成するために、「学校全体で育成したい資質・能力」を明確にし、教科等横断的な視点を踏まえて、各教科で身に付けるべき資質・能力を考慮しながら単元を構想する。

(2)「主体的・対話的で深い学び」の姿を具体的に示して焦点化するとともに、各学びの姿をピクトグラムを用いて視覚化し、教師も生徒も授業において「目指す学びの姿」を共有化する。

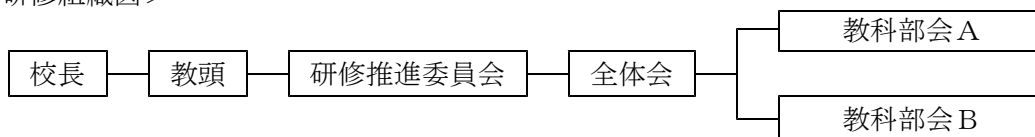
(3)「インプットした情報を活用して思考し、他者と交流しながら自分の考えを新たに創り出してアウトプットする」という学習過程を重視し、学びの重点を意図的・計画的に構想しながら「単元構想シート」にまとめ、一人1授業の実践を通して手立ての有効性を検証する。

(4)授業実践後は、部会別検討会を行い、授業の取組を「授業記録」にまとめ、廊下に掲示して生徒にも研修の内容がわかるようにする。また、KJ法を用いて授業について検討したことを「検討会記録」に整理するとともに、授業から検討会までの記録を「校内研修推進だより」にまとめ、全教員が課題を共通理解しながら授業改善を図る。

5 研修組織 ◎は主担当

組 織	構 成 員	研修推進上の役割や主な研修内容
研修推進委員会	校長 教頭 教務 ◎研修主任 ○教科部会代表 A (遠藤) B (星野理)	○研修計画の立案 ○全体会に提案する内容の協議 ○研修の課題の焦点化 ○授業実施詳細計画の作成 ○研修成果と課題のまとめ
全体会	全職員	○研修内容の確認
教科部会A 6名	○遠藤 ◎岡田 植木 戸部 倉澤 笹川	○研修のねらいにそった指導案検討会の実施 ○授業の視点にそった授業参観の実施 ○授業検討会での良い点・改善点の意見交換 ○授業検討会での次回授業に向けての見通し
教科部会B 6名	○星野 栢井 上山 篠澤 笹口 阿部	○研修のねらいにそった指導案検討会の実施 ○授業の視点にそった授業参観の実施 ○授業検討会での良い点・改善点の意見交換 ○授業検討会での次回授業に向けての見通し

<研修組織図>



6 研修の経過

※ 指は指導案検討、授は研究授業・授業検討会、□は校内研修、○は部会別研修

月日	内 容	研 修 の 視 点
4.9	1 本年度の研修について 研修主題、副主題の共通理解	・今年度の研修の主題・内容・方向性の確認 ・研修内容の共通理解と一人1授業者決定
5.7	2 研修計画の確認、A訪問Aに向けて NRT結果分析について	・研修計画書検討と確認 ・指導案形式検討と確認 ・各学年、各教科での分析依頼 ・各部会の組織作りと研修内容、計画の確認
5.28	①部会別研修A・B	・各部会でA訪問指導案検討会実施
6.5	3 指導主事要請訪問A	・教科等横断的視点を踏まえた学びを深める単元づくり の授業実践、授業検討会、研修についての指導、助言
6.25	4 A訪問指導助言と提案授業の確認	・指導助言を踏まえた研修の方向性を見直し ・一人1授業の提案「篠澤」「戸部」
7.12	授 戸部教諭3年 英語 「Unit2 From the Other Side of the Earth」 部会別研修A	・一人1授業実践と部会別研修 ・部会別研修の成果と課題、今後の予定の確認
7.18	授 篠澤教諭2年 理科 「動物の生活と生 物の変遷」 部会別研修B	・一人1授業実践と部会別研修 ・部会別研修の成果と課題、今後の予定の確認
9.3	5 B訪問指導案1次検討会及び部会別提 案授業の確認	・B訪問指導案検討① ・一人1授業の提案
9.19	授 岡田教諭3年 国語 「片品紀行リー フレットを作ろう」 部会別研修A	・一人1授業実践と部会別研修 ・部会別研修の成果と課題、今後の予定の確認

9. 21	授 笹口教諭1年 音楽 「言葉のリズムで 片品を紹介しよう」 部会別研修B	・一人1授業実践と部会別研修 ・部会別研修の成果と課題、今後の予定の確認
9. 25	授 星野教諭1年 理科 「身のまわりの物 質」	・一人1授業実践と部会別研修 ・部会別研修の成果と課題、今後の予定の確認
10. 1	6 B訪問指導案2次検討会及び公開研授 業に向けての最終確認	・B訪問指導案検討②(役割分担、参観の観点等) ・公開研授業指導案検討①(運営確認) ・公開研指導案1次案提案「松井」「遠藤」「倉澤」
10. 5	授 植木教諭1年 国語 「片品中学校リ ーフレットを作ろう」 部会別研修A	・一人1授業実践と部会別研修 ・部会別研修の成果と課題、今後の予定の確認
10. 9	7 指導主事要請訪問B授 阿部教諭 体育 「器械運動(マット運動)」1年	・教科等横断的視点を踏まえた「学びを深める単元構想」 の授業実践、授業検討会、研修についての指導、助言
10. 17	8 「主体的・対話的で深い学び」指定校 授業公開 授 松井教諭1年 数学「比例と反比例」 授 遠藤教諭2年 英語「Universal Design」 授 倉澤教諭3年 社会「地方自治と私たち」	・教科等横断的視点を踏まえた「学びを深める単元構想」 の授業実践、授業検討会、研修についての指導、助言 ・一人1授業実践と授業検討会
10. 22	9 B訪問指導助言の確認と公開研授業の 成果と課題の確認	・B訪問指導助言の確認 ・今後の授業提案「笹川」「上山」
11. 1	授 笹川教諭1年 社会 「北アメリカ州」 部会別研修A	・一人1授業実践と部会別研修 ・部会別研修の成果と課題、今後の予定の確認
11. 2	授 上山教諭2年 数学 「図形の性質と 合同」 部会別研修B	・一人1授業実践と部会別研修 ・部会別研修の成果と課題、今後の予定の確認
11. 5	10 研修の成果と課題および来年度に向 けての研修に向けて	・研修の成果と課題アンケートについて ・来年度の研修についての意見交換
12. 17	11 指導助言の確認と研修の修正 研修のまとめ①	・成果と課題の明確化、研修主題・副主題の見直し ・実践してきた全体、部会研修のまとめ
2. 4	12 研修のまとめ②	・紀要等の作成確認と分担、年間指導計画の見直し ・研修の成果と課題、来年度の研修の方向性検討
3. 4	13 引き継ぎ事項の確認 紀要の完成	・来年度へ向けての引き継ぎ事項の確認 ・来年度の研修主題、副主題原案作成、本年度のまとめ

※その他の研修

月日	区 分	講 師	内 容
5. 7	食物アレルギー研修	井上佳月子養護教諭	・食物アレルギーへの対応について
5. 28	心肺蘇生法講習会	利根沼田広域消防	・心臓マッサージ、人工呼吸法、AED使用法
6. 22	特別支援教育研修	青木美穂子SC	・特別支援生徒に対する対応について

Ⅲ 実践内容

1 研究の基本となる内容

本年度の研究は、本校の目指す生徒像である「創造的に考え、わかりやすく発信できる力」の育成を目指し、教科等横断的な視点を踏まえて単元をつないだ。また、「主体的・対話的で深い学び」の単元構想を教師や生徒にも共有化できるように工夫した。このような単元構想を一人I授業の実践を通して、授業研究会で検討しながら、目指す生徒像の実現を図るべく授業改善を行った。

(1) 教科横断的な視点を踏まえた単元構想

本校の教科等横断的な視点とは、校長の示すグランドデザインをもとに考えた本校生徒に必要な「創造的に考え、わかりやすく発信する力」を、各教科で身につけさせたい力を踏まえながら単元構想し、学校全体で目指す生徒像の具現化を図ることである。

これは、文部科学省の示すカリキュラム・マネジメントの視点を踏まえた取組であり、将来的には教育課程全体を俯瞰的に見て、各教科の単元のつながりを考えて、諸計画を整備していく見通しをもっている。

今年度の研究では、「グローバル人材の育成」を目指し、各教科の単元レベルまで具体的な生徒の姿として明記し、目指す生徒像の共有化を図った。

(2) 単元構想シートの共有化の工夫

本校では、「主体的・対話的で深い学び」を各学びにおいて、4つの生徒の姿として精選・焦点化を図った。学びの姿をピクトグラムで表すことで、生徒にも教師にも視覚的に共有化できるよう工夫した。なお、ピクトグラムは「NITS（独立行政法人教職員支援機構）」の実践を活用したものである。この学びの姿は、教育活動が行われるすべての場所に掲示し、学校全体で共有化を図った。また、授業の際には必ず、ピクトグラムを掲示して、本時の学びの確認をしてから授業を行うようにした。また、単元シートもピクトグラムで表示するなどして、一目で何の学びかわかるように工夫した。各学びの姿を具体化することで授業を参観する際の視点も明確になった。

片品中の教科等横断的な単元構想
グランドデザイン
グローバル人材の育成
～広い視野をもち、片品の未来を創る人材の育成～

目指す生徒像（研修主題）

創造的に考え、わかりやすく発信できる生徒

各教科における「創造的に考え、分かりやすく発信する姿」

社会生活と関連した正解のない課題による学習活動を通して、自分の思いや考えを前向きに振り出し、受け手の立場を考慮しながら着いたり話したりする。

社会との関わりを意識した課題の追究や解決を通して、社会的事象の意味や意義などを考察し、説明したり議論したりする。

日常や社会的事象を数理的に捉え、問題を数式的に解釈したり、論理的に考察したりして解決し、数式的な表現で論議する。

自然の事象・現象に連んでかわり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもつ観察、実験などを行い、結果を分析して解釈し表現する。

音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音から聴いてそのよさや美しさなどを見いだしたりする。

運動や健康についての自然の課題を見出し、合理的な解決に向けて思考・判断して学習に臨める。

外国語
 日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、自分から発信したり表現したり伝え合ったりする。

総合的な学習の時間
 単社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめた表現する。

特別活動
 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりする。

片品中の主体的・対話的で深い学び

片品中 **学びの姿**

めざす

主体的な学び

- 興味や関心を高める
- 見通しをもつ
- 身近なことから結びつける
- 振り返って次へつなげる

対話的な学び

- 互いの考えを比較する
- 多様な手段で考えを表現する
- 先人の考えを手がかりとする
- 力を合わせて課題解決する

深い学び

- 思考して問い続ける
- 知識・技能を活用する
- 自分の思いや考えと結びつける
- 新たな考えを創り上げる

4 (3) 成果と課題の共有化を図る工夫

昨年度から継続して、授業後には参観者による部会別授業検討会を行い、「検討会記録」としてKJ法で模造しにまとめた。「校内研修推進だより」を推進委員がまとめ、職員全員に配付して、課題の共有化を図り、次回の授業者に課題を引き継げるよう工夫した。授業を参観できなくても、これを読み、共通理解を図ることで課題を意識して一人1授業の単元構想をし、授業改善に役立てた。また、「授業記録」としても残し、どんな授業が行われたか振り返りができるよう工夫した。

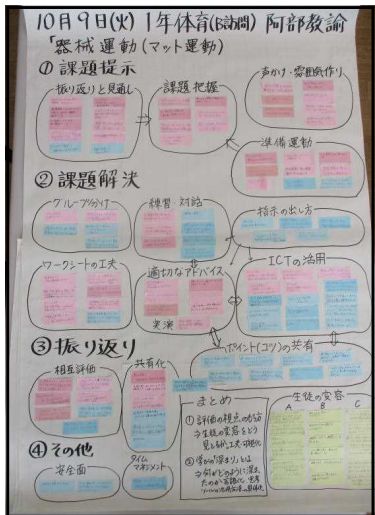
I. 単元構想シート (国語)

単元名:「片品紀行リーフレットを作ろう」～おくのほそ道から学ぶ～

- 身に付けた力 (指導事項)
 - 「作家の創作態度、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと」(公読文・コ)
 - 「古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を関する簡単な文章を書くこと」(伝統・ア・イ)
- 目指す生徒像 (「創造的に考え、わかりやすく発信する生徒」の姿)
 - 「おくのほそ道」で学んだことを活用して、現代文で紹介する「片品紀行リーフレット」を書くことを通して、片品の人間、社会、自然に思いをめぐらせ自分の考えをもつことができる。
- 目指す学びの姿

主体的な学び【意】	対話的な学び【意】	深い学び【つなぐ】
身近なことを題材に付ける	先生の話や資料を参考にし、現代文と古文を比較すること	深い学び【つなぐ】

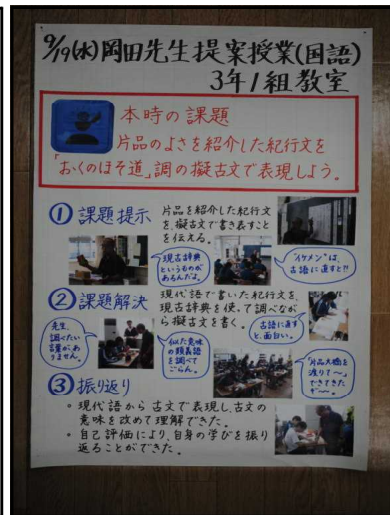
単元の対照	主な学習活動と評価の観点	学習活動への支援・留意点	学びの姿
① 道の歌「尾瀬かたしな」に興がする作品「紀行文」を得ることを知り、全文を訳読する。	① 道の歌「尾瀬かたしな」に興がする作品「紀行文」を得ることを知り、全文を訳読する。	全国の旅人の目に触れるので、片品の魅力をおかしくやくて伝えていき、全文を訳読する。	【1】
② 「月日は」から、産業の歴史について思いを読み取る。	② 「月日は」から、産業の歴史について思いを読み取る。	リーフレット型のワークシートで完成イメージがもてるようにする。	【2】
③ 「言葉」から、言葉の歴史や古人の思いを読み取る。	③ 「言葉」から、言葉の歴史や古人の思いを読み取る。	現代文を古文でどのように表しているか比較しながら読み、古文でどのように表しているか比較しながら読み、現代文を読み取る。	【3】
④ 「空舟」から、五感を働かせることを読み取る。	④ 「空舟」から、五感を働かせることを読み取る。	リーフレット作りを通して、現代文をもとに発音練習や漢字の練習をする。	【4】
⑤ 片品自筆できる場所を選び現代文で「紀行文」を書く。	⑤ 片品自筆できる場所を選び現代文で「紀行文」を書く。	現代文をもとに発音練習や漢字の練習をする。	【5】
⑥ 現代辞典を用いて、紀行文を書く。	⑥ 現代辞典を用いて、紀行文を書く。	辞書を用いて、現代文のよさを生かした表現になるように「おくのほそ道」の学びをもとに表現する。	【6】
⑦ 紀行文に添える俳句を読み、「片品紀行リーフレット」を完成させる。	⑦ 紀行文に添える俳句を読み、「片品紀行リーフレット」を完成させる。	現代文のよさを生かした表現になるように「おくのほそ道」の学びをもとに表現する。	【7】
振り返り	振り返り	できあがった作品のよさについてお互いに認め合う学習態度を大切にすることを確認し合う。	【8】



部会別検討会記録



校内研修推進だより



授業記録

2 授業実践 ※見開き2ページ (単元構想シート・指導案)

- 実践例 1 (3年・英語) 戸部教諭
- 実践例 2 (2年・理科) 篠澤教諭
- 実践例 3 (3年・国語) 岡田教諭
- 実践例 4 (1年・音楽) 笹口教諭
- 実践例 5 (1年・理科) 星野教諭
- 実践例 6 (1年・国語) 植木教諭
- 実践例 7 (1年・社会) 笹川教諭
- 実践例 8 (2年・数学) 上山教諭
- 実践例 9 (1年・体育) 阿部教諭
- 実践例 10 (3年・社会) 倉澤教諭
- 実践例 11 (2年・英語) 遠藤教諭
- 実践例 12 (1年・数学) 松井教諭

B 訪問
公開研
公開研
公開研

3 アンケート結果および分析

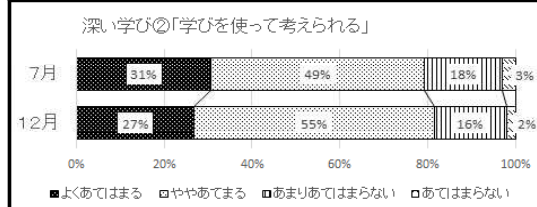
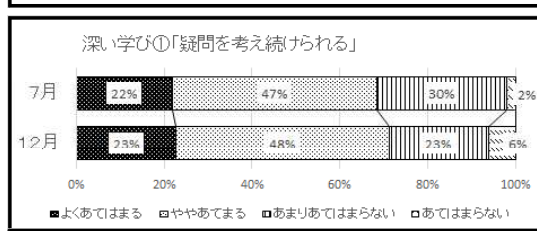
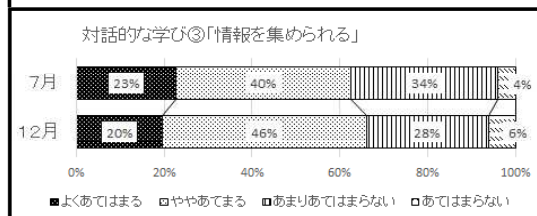
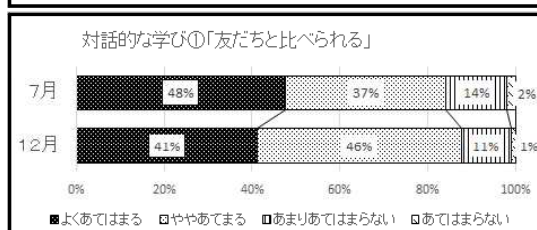
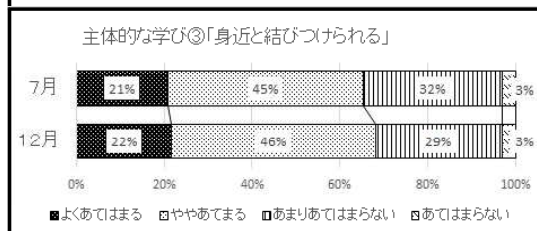
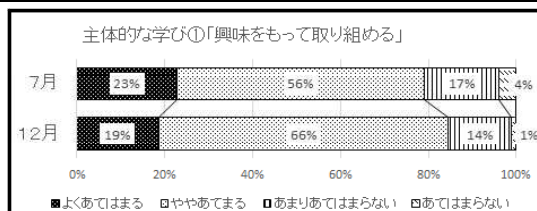
本研究に関するアンケートを以下の項目で1学期と2学期に実施した。(4段階評価)

本研究におけるアンケート項目は「主体的・対話的で深い学び」の4つに焦点化した手立てとした。具体的な項目としては、主体的な学びは「①興味をもつ②見通しを持つ③身近なことと結ぶ④振り返る」対話的な学びは「①考えを比べる②多様な方法で説明する③先人の考えを手がかり④協力して課題解決する」深い学びは「①疑問をもち続ける②学びを活用して考える③思いや考えと結びつける④新たな考えを創り出す」である。

「主体的な学び」の視点では、「興味をもって取り組むことができる」「身近なことと結びつけることができる」の2つの視点で成果がみられた。このことから、単元構想における課題設定の工夫によって、生徒の興味を喚起したり、地域との結びつきを感じたりしたことが考えられる。「かたしな」を意識した課題設定を行った実践は多く、生徒たちも主体的に課題解決に取り組む姿が見られた。

「対話的な学び」の視点では、「友達の意見と比べることができる」「本や先生から情報を集めることができる」で成果がみられた。このことから、学習過程に意図的に設定した交流活動において、友達と自分の意見を比較検討しながら、自分の意見を修正していく学習や課題解決のために自ら必要感をもって本や先生から情報を集めて、それらを活用しながら課題を解決する学習ができるようになってきたことがわかる。自分以外の考えを取り入れながら、その情報を吟味して取捨選択する能力が身に付いてきたと考える。

「深い学び」の視点では、「疑問に思うことを考えつづけることができる」「学んだことを使って考えられる」で成果がみられた。このことから、単元を貫く課題が設定されたことにより、単元を構成する1単位時間すべてが課題を解決するための時間であることが意識されていると考えられる。また、学習したことを使って考える学習過程で単元構想している実践が多くあり、その結果が反映された結果であると考えられる。本校の「学びを深める」単元構想によって、学んだことを使って考えることができる生徒が育成されてきた結果であると考えられる。



VI 研修のまとめと今後の課題

1 研修のまとめ

昨年度の「学びを深める単元づくり」を通して、「主体的・対話的で深い学び」の授業実践の研修を基盤とし、今年度は「教科横断的な視点を踏まえて「学びを深める単元」をつなぎ、どの教科でも本校の目指す生徒像である「創造的に考え、わかりやすく発信できる生徒」の育成を目指した単元構想とその学習過程における指導法のあり方を追究した実践を行った。生徒の振り返りの記述などから考える研修の成果は以下の通りである。

- (1) 単元を貫く課題設定において、生徒の興味関心を喚起し、意欲をわかせるような工夫をすることより、主体的に学ぶ姿がみられるようになった。特に単元を貫く課題設定を意識し、見通しをもって取り組ませたり、「かたしな」という地域を取り上げた身近な課題を考えさせたりすることで、継続して学習意欲が高まった。
- (2) 対話的な学びにおいて、対話する必然性をもたせる場面を設けることで、自ら必要な情報に焦点化して対話する姿がみられるようになった。話し合いの仕方においても、意図的な班編成を工夫したり、意見を比較できるような場を設定したりすることで、目的意識を明確にもって話し合う力が高まった。
- (3) 単元を貫く課題を既習事項を活用して解決しようと考えたり、創ったりする学習活動を意図的に単元構想することで、より深く学ぼうとする姿がみられるようになった。特に、本時だけでなく単元全体を通して深い学びを実現させるような意識をもって指導することによって、学びの活用が図られるようになった。また、単元を構想する際にも学んだことを活用してスパイラルに力を身に付けさせていくイメージをもって指導しているので、単元を構成する授業につながりと学びの必然性が生まれ、生徒自身が学習を通して深まっている実感をもてるようになった。

2 今後の課題

- (1) 単元構成を行う際に、教科等横断的な視点に関する共通理解を各教科間で一層図る必要がある。特に「教科横断的な視点」に関する共通理解では、各教科において「創造的に考え、わかりやすく発信する姿」を身に付けさせたい資質・能力を踏まえながら、より具体的に言語化し、イメージを共有していく必要がある。
- (2) 主体的な学びでは、「見通しをもつ」「振り返って次につなげる」に課題があった。普段から学習過程において、めあてと振り返りの設定を習慣化させる必要がある。
- (3) 対話的な学びでは、「色々な方法で説明できる」「友達と協力して解決する」に課題がみられた。対話の仕方の指導や学び合いの前提となる人間関係の形成が必要である。
- (4) 深い学びでは、「自分の思いや考えと結びつけて考える」「新たな考えを創り出す」で課題がみられた。個人思考の段階で思いや考えがもてない生徒への支援のあり方や正解のない問いなどに対する根拠を明確にした創造的な思考はこれからも継続して育成すべき能力である。